

令和元年度第2回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和元年度まちづくり活動助成事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和2年2月6日(木) 午後6時30分～8時30分

場 所：宮城野区中央市民センター3階 第3会議室

出席者：井上委員長、高畑副委員長、佐藤副委員長、庄司委員、
有坂委員、葛西委員、まちづくり推進課

1 開会

2 挨拶 (井上 範一 委員長)

3 報告・評価方法について (事務局より説明)

4 事業報告及び質疑応答

(1) 事業名：みんなで歩こう、宮城野原

団体名：宮城野原案内人の会

<質疑・意見>

委 員 経費について、消耗品の額が全体の50%を超えている。このような状態だと、自立した際に、自滅してしまいかねない。消耗品に重きを置かず、宮城野原の魅力を伝えるところにお金をかける等、経費の振り分け方について学ばれると良いのでは。

説明者 消耗品については、まだ団体の地盤が固まっていないのが実態であり、まち歩きイベントの資料も手作りのものしかない。手探りを続けている状況であるが、今後も幅を広げつつ、自立発進できるようにしていきたい。

委 員 消耗品について、これはチラシの印刷費が含まれていると思われるが、区別して出すと分かりやすいのではないかと。チラシなど広告については、イベントの告知のために必要なものであるため、消耗品というくくりではなく、別項目にして整理すると良いのではないかと。

説明者 消耗品は一部印刷費に回っているものもある。1回に大量に印刷するのであれば経費も安くなるかもしれないが、種類を多くしているため若干プラスになったのかもしれない。

委 員 収入として「会費」を増やしていくことが資金のベースになるのではないかと。例えば、まち歩きをする地域の方に会員になってもらい、この人たちにも会費をお願いすることなどをチャレンジしてもらいたい。

説明者 会員の募集は当初からの目標である。二十人町や鉄砲町の商店街に行くと、会員になってもらえそうな人も何人かおり、コンタクトをとっている。まだ実績に出していない部分もあるため、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

委 員 仙台市内のまち歩きというと、一般的には1回につき2,000円徴収することが主流になっている。資料作成に必要な専門知識や下見、また、案内する方の事故の防止のため保険料も必要となる。こうしたことを踏まえると、堂々と徴収しても良いのではないかと。それだけの価値があるということで、参加する方もいるのでは。また、資料については、一般参加者には2,3枚しか配らない。価値のあるものはファイルに入れて見せながら説明をすると、身軽に動くことができ、経費もかからない。

説明者 資料については、配布枚数を少なくするなど最小限にするようにしており、今後も取り組んでいきたい。

(2) 事業名：仙台蒲生日和山プロジェクト

団体名：中野ふるさと YAMA 学校

<質疑・意見>

委員 この助成金がなくなった際に、懸念となるのはトイレとバスだと思われる。それをどのように手配するか、今のうちから考えると良いのではないか。企業や町内会、地元の方々と協力し合い、知恵を出していけると良いと思う。

説明者 簡易トイレは費用負担が大きいものとなっている。バスもそうだが、公営住宅に住む高齢者の方が多く来られるため、企業から協賛金を集めたりして継続していきけるようにしたい。

委員 今後の継続を考えると、いかに収益を上げ活動に反映していくか、今後人が集まるイベントとして定着していきけるかが課題と思われる。他の震災地域の例を挙げると、若林区では復興マラソンの際に、地元の生産物を入賞者への商品としていた。石巻の方でも、地元の食べ物と文化の紹介するイベントを開催している。

説明者 交通機関については、いまは助成金があるため無料にしているが、いずれは全額ではないにしても、半額を有料化することも検討している。トイレについては、仙台市の協力もあり、慰霊塔と日和山の駐車場にはトイレを整備してもらえるように進めている。また、今後は自立していきけるように、協賛金を集めたり、販売等をしている。

委員 復興だけでなく、子どもたちにとってもプラスになる事業だと思う。今後、好評である登頂証明書で収入を得ることができると良いのではと思うが、そのような検討はしているか。

説明者 登頂証明書については、収益化に向けた課題が解決されれば、有料にすることも考えている。登頂証明書を目当てに来る方もいるため、方法を検討し、継続していききたい。

(3) 事業名：新浜『食』・『農』体験学校

団体名：宮城野親子で料理プロジェクト

<質疑・意見>

委員 これだけの活動を年間通して行っていると、事務局の負担が大きいと思われるが、事務局の充実についてはどのように考えているか。

説明者 今年度から、農作業と料理部門を分担し、代表者は事務に専念できるような体制が整いつつある。ボランティアもまだ少ない状況ではあるが、協力してもらえる方が増えてきており、昨年よりは負担が少なくなっている。

委員 たとえば、広告代理店の方に協力してもらい、営業をしてもらえると、企業から協賛を得られるのではないか。

説明者 企業協賛に関しては、いくつかの企業に話をしてみたが、市民センター等と一緒にやっていない、単独の団体であると、受け入れてもらえないところがあった。来年は、今年度の取材の資料をもっていく等、改めて頑張りたいと考えている。

委員 課題として、地元の方との距離の取り方等を挙げているが、このままいくと団体の規模はさらに大きくなると思う。中長期的に、何を目指してどこまでやるのか固めていかないと、地元と距離ができ離れていってしまうのではないかという心配がある。

説明者 指摘のとおりである。最初は、岡田の新浜地区だけで活動していたが、規模が大きくなると子どもたちの数も多くなるため、ご高齢の方が離れていくような場面も今年度はあった。したがって、来年度は、新浜地区で行う事業と、沿岸地域で行う事業、他で行う事業をきちんと振り分けて、活動していききたいと考えている。

委員 この事業は収支のバランスも良く、素晴らしいと思ったが、素晴らしいと思われた時が1番怖い。信用を築くのは大変だが、失うのはあつという間である。地に足をつけ、核を忘れずに活動を続けてもらいたい。

説明者 もともと新浜地区で始めた活動であるため、皆様と交流できる部分はきちんと残して

いきたい。また、収入については、今年度はイベント等で予定よりも多くの売り上げがあり、事業の継続について先が見えてきた部分もある。また、アドバイスをもらっていた商品のブランド化についても、来年度は地域で PR して認知度を高めつつ、収益も上げながら、子どもたちの体験にもなる、そういった関係を続けていきたい。

(4) 事業名：東仙台・まちの耀きを発見し、コミュニティを活性化させるプロジェクト

団体名：東仙台耀き歴史クラブ

<質疑・意見>

委員 この事業の目的について、報告書に詳細に書いてもらいたい。また、アンケートを実施されたのであれば、アンケートの結果、どのような課題が浮き彫りになり、その課題に対して次年度どのように活動していくのかを教えてもらいたい。

説明者 事業の目的は、東仙台の歴史や地形について、魅力を掘り起こして紹介することで、地元の方や子どもたちにアイデンティティを持ってもらうことである。アンケートでは、事業について好評を得ているが、参加者にはリピーターも多い。したがって、他の東仙台の方や仙台市の人など、新たな参加者も発掘していきたいと考えている。

委員 東仙台の良さについて、色々な人に呼びかけることを課題としているが、課題の整理が必要と思われる。また、報告書について、参加人数も明記してもらえると良い。リピーターが悪いわけではなく、リピーター率がどのくらいあるのかが分かると良いと思う。

説明者 先日、「案内の湯豆腐」というイベントを他団体と連携して開催したところ、運営側も含めて約 50 名に参加してもらった。昨年、メニューを増やしたりしたところ、好評を得ることができたため、来年度は 1 回のイベントではなく、シリーズ化も検討している。今後も他団体とも連携して活動していきたいと考えている。

(5) 事業名：いわきり遊学プロジェクト

団体名：IOC（岩切おもしろ倶楽部）

<質疑・意見>

委員 おもしろ寄席、大喜利が IOC の真骨頂だと思う。このイベントに特化していくと、多世代循環につながり、年代を超えて持続できる地域ができると思う。ぜひ、そういった役割を担ってもらいたい。

説明者 我々も寄席についてはきちんとやっていきたいと思う。参加者のほぼ全員の方が書いてくれたアンケートは「満足」「ほぼ満足」がほとんどであったが、中には辛口のコメントもあった。そうしたコメントに目をつけ、今後の展開に反映していきたい。また、以前指摘されたが、地元の方々の参加も重要視して活動していきたいと思う。

委員 賛助会費を通して、岩切の方々が IOC の活動を支えることで、IOC がますます岩切のために活動することができるのは素晴らしいと思う。岩切の中で、まちづくりや地域を盛り上げていくのに、まず IOC に声をかけようといった声も出てくるようになるのでは。

説明者 賛助会費については今後も継続して取り組んでいきたい。また、地域の皆さんに我々の活動を認知してもらえるようにしていきたい。認知度は上がってきている。なお、一般賛助会員は年間 1,000 円の会費をもらうが、団体構成員以外に 30 名ほどいる。地元の企業にも 10 社協力してもらっている。

委員 大喜利に参加した子ども以外に、会場に来る子どもが少ないのが残念ではある。会場の方も子どもでにぎわうように、頑張ってもらえたらと思う。

説明者 もう少し子どもたちが増えると良いと思う。保護者も参加していたが、そうした年代との接点は重要であると思う。また、地元の団体の連携が今回さらに強まったと思う。

(6) 事業名：貞山運河と新浜の魅力アップ事業

団体名：新浜町内会

<質疑・意見>

- 委員 新浜に魅力的なものがあると伝われば、自ずと人はついてくる。新浜町内会の皆様が新浜の魅力を自分たちで満喫していることがまず大切である。そこに訪れた人が口コミで広げるし、メディアに取り上げられたのであれば、また別のメディアが取り上げるようになると思う。いま行っていることを焦らず地道に続けていくことが大切だと思う。また、地域のネットワークは今後も少しずつ広げていくと良いのでは。
- 委員 町内会の役割や運営への参加などはどのようになっているか。
- 説明者 町内会の役員会で事業計画を立て、実際に役員が中心スタッフとなり運営している。世帯数や人口は少ないが、役割分担をして活動している。
- 委員 おもてなしをする町内会側と、来てくれる方との交流を通じて、ファンをつくっていきけると良いのではないかと思う。
- 委員 大きなファクターを占めるのは大学の協力かと思う。大学の協力がどれくらいの年数得られるのかはかなりシビアなところかと思うが、もし大学の協力がなくなってもやっつけられるようなシミュレーションがあると良いと思う。この事業は町内会活動のお手本になると思う。
- 委員 規模の大きい事業であるわりには自己資金が小さい。次回申請をされる場合は、自己資金の取り方を発表してもらいたい。また、自然を相手にする活動であるため、保険はもちろん、参加した方からアンケートを取り、客観的に見て危ないところを指摘してもらい、それを生かしてより安全な事業にしてもらいたい。
- 説明者 渡し船自体は何年も行っており、アンケートで石が危ない等の意見をもらうこともあったが、町内会役員で協力して対応している。また、アンケートでは新浜のにぎわいづくりのアイデアをもらうようにしている。

(7) 事業名：萩野町シティウォーク

団体名：萩野町シティウォーク実行委員会

<質疑・意見>

- 委員 委員長の仕事の延長にあるような感じがする。そのあたりが、町内会や民児協の協力を得られなかった要因ではないか。
- 説明者 実行委員会メンバーは委員長含め高齢者施設で働いているが、ウォーキングを通して、町内会の方々などとも交流していきたいと考えている。また、毎月民児協に参加しているが、孤独な高齢の方や障害等でなかなか外に出られない人など、色々な方が楽しみながら参加でき、いまの生活を継続できるようにしていきたい。企業色がなかなか拭い去れていなかったところは今後の課題である。
- 委員 地縁組織の求めていることや課題の解決を、実行委員会がお手伝いすることにより、地縁組織の側もこの事業に参加するなど、町内会の一行事のようにできるような関係性を構築できると、意味のある事業になってくると思う。
- 委員 地域包括支援センターと連携すれば、町内会や民児協など様々な団体も乗ってくると思うが、そうした入口が大事ではないかと思う。
- 説明者 地域包括支援センターについては、同じ福祉事業として関わりはあるものの、我々の企業色が強いというところで、地域の方に声をかけるのは難しいと言われている。町内会との関係性もうまくいっていないと思う。その点については、時間をかけながら、我々の活動を活用してもらえるように、広げていきたいと思う。
- 委員 なぜ榴岡公園でウォーキングを行っているのは疑問に思う。地域の中で高齢者の方々が健康になる方向、ウォーキングをどのように地域の中で生かしていけるか考えてもらいたい。また、収支決算書をみると、十分自立できると思うため、さらに頑張っ

もらいたい。

説明者 榴岡公園を選んだ理由は、色んな方が参加して安全に活動できる広い場所であるということが大きい。また、野球場周辺も検討したが、高齢の方々からすると、定期的に休めるイスなどの場所がないと難しいため、榴岡公園を利用していた。今後は、少しずつ信頼や他の企業からも協力してもらいつつ、ウォーキングを通してこれからも長く住み続けることができるまちづくりに寄与していきたい。

5 閉会